

松下幸之助記念志財団 研究助成

研究報告

(MS Word)

【氏名】 武藤 美穂子

【所属】 (助成決定時) 筑波大学大学院世界遺産学学位プログラム

【研究題目】 文化的景観としての「菅谷たたら山内」－空間にまつわる記憶の集積を手掛かりに－

【研究の目的】 (400字程度)

本研究では、国指定重要有形民俗文化財「菅谷たたら山内」(島根県雲南市)を対象とし、我が国伝統の製鉄技法である「たたら製鉄」によって形成された生業景観について明らかにすることを目的とする。「たたら製鉄」は、宮崎駿監督のアニメ作品「もののけ姫」の題材になったことでも知られる。たたら操業は大量の砂鉄と木炭を燃焼することで日本刀等の材料となる玉鋼を製造するが、作中では森林を荒廃させ、環境破壊を引き起こす要因として、「人間と自然の対立」という構図のもとに描かれている。

しかし、実際の操業では自然資源の枯渇は同時にたたら場の閉鎖を意味することから、適切な森林の管理のもと、数百年にわたる持続的な産業基盤が維持されてきた。そこで本研究では、たたら場に伝わる伝統、製鉄集落特有の空間原理、鉄山の立地や森林資源の利用について解明することで、文化的景観としての「菅谷たたら山内」の特質について考察する。

【研究の内容・方法】 (800字程度)

本研究では、伯耆国(現鳥取県)の鉄師・下原重仲による技術書『鉄山必要記事』(1784)の記述をもとに、「菅谷たたら山内」における高殿(製鉄施設)の神性、製鉄集落・山内を規定する空間原理、自然資源の利用について分析した。

はじめに、たたら操業の責任者である村下の体験談を収録した『菅谷鑪村下聞書』及び『語り部』をもとに、菅谷鉦に伝わる伝統や慣習から製鉄施設・高殿の神性について考察を行った。併せて、金屋子神社本社縁起『金屋子神祭文雲州非田の傳』の記述内容及び『鉄山必用記事』の中の作業従事者に対する申し渡し事項から、高殿の神性及び祭祀空間としての性質を導き出した。

次に現地調査をふまえ、『鉄山必用記事』の記述及び「菅谷鉦山内絵図」に描かれた集落景観を実際の地形や景観要素と比較することで、製鉄集落・山内の根底にある空間原理の究明を試みた。「菅谷鉦山内絵図」は記載された施設名称及び居住者の氏名等から、明治18(1885)年以降、同39(1906)年までの間の状況を記録した絵図と考えられており、操業当時の「菅谷たたら山内」を知る数少ない史料である。これらをもとに、山内を規定する空間原理について、水理条件、高殿の立地、動線計画、諸施設の配置、方位と安全祈願、自然崇拜と神格の観点から分析を行った。

さらに、明治期の史料である『鉦山発達史』の記載事項から、「菅谷たたら山内」における実際の操業状況を分析した。『鉦山発達史』は、明治33(1900)年開催のパリ万国博覧会において、我が国の各種鉦山を紹介するため、当時の農商務省鉦山局によって作成された資料である。本書で「菅谷たたら山内」の前身となる「菅谷鐵山」は、我が国を代表する鉄山として紹介された。そこで『鉄山必要記事』の記述、『鉦山発達史』の記載事項、「菅谷たたら山内」周辺の実際の地理的要件を比較しながら、砂鉄と鉄穴流し、木炭と木山、水資源と利水の観点から自然資源の利用について考察を行った。

【結論・考察】（４００字程度）

古代より山や風、火や土を巧みに利用するたたら操業では、独自の自然観を形成するなかで冶金採鉱の神として金屋子信仰を生み出した。高殿と呼ばれる建築様式は金屋子降臨譚を祖型とし、「たたら吹き」という神聖な儀式を再現するための空間として発展したと推察される。

一方、近世期には鉄需要の拡大に伴って大規模な生産体制が整えられた。併せて、安定的な労働力を確保する目的で山内と呼ばれる鉱山集落が発達した。その空間構成からは立地や水利、動線計画、配置計画、防火対策といった実利的側面だけでなく、風水や自然崇拜に基づく抽象的な概念も見出せた。

さらに『鉄山必要記事』が示すように、近世期頃までには明確な経営手法が理論化されたことで持続的な運用が行われてきた鉄山であるが、明治期になると長期の強度利用による森林資源の枯渇や洪水被害等が問題視されるようになった。

本研究からは、地域の基幹産業として展開された製鉄業によって、「菅谷たたら山内」を中心とする文化的景観が形成された経緯が明らかとなった。